

esplanade

FUKUOKA ART MUSEUM 福岡市美術館

esplanade [エスプラナード]
OCTOBER 2024 | NO.217



仙厓義梵（1750～1837）
江戸時代後期 19世紀
墨画淡彩・紙
縦50.9×横23.3 cm
三宅コレクション

表紙の作品

所蔵品紹介

章魚（たこ）図

実は仙厓のなかでも解説するのに勇気のいる作品なんです。ひらがなをタコにあわせてぐにゃぐにゃさせた賛文とか。

こえたこう云うては　はつかしくすいつくよふて　もふよくてよし

現代語訳しなくても、なんとなくわかりますよね。エッチなんです。「こえたこう」は駄洒落。禅僧のくせにね。絵はただ単にタコですが。

ピンときました？　そうこの作品は北斎の『喜能会之故真通（きのえのこまつ）』のタコと海女の春画に通じています。北斎の画面にはタコと海女のセリフがオノマトペつきでびっしりと書かれています。この賛文もまるでセリフ。仙厓さん、パクった？

北斎の春本は文政年間の出版なので七十歳代の仙厓が読んだ可能性アリです。禅僧しかも年寄りのくせにですけど。たとえ北斎の春画は見てなくても、北斎より古いタコと海女の春画はいくつもあるし、近松の浄瑠璃にも登場します。つまり江戸のエッチの有名どころ。だからこれを描いてあげた相手も、アアあれか、と喜んだのではないでしょうか。

この画題にした動機？…ゆでダコをもらってうれしかったとか。だから珍しく朱色まで使ってお礼に描いたとか。相手はどんな人？…こういうシャレが通じる人でしょうね。

――総館長　中山喜一朗

esplanade

［エスプラナード］

OCTOBER 2024 | NO.217

contents

03　所蔵品紹介

04　博多のほとけさまに会いに行こう

06　企画展 生誕260年
世を観る眼 白酔庵（はくすいあん）・吉村観阿（よしむらかんあ）

08　企画展 あらがう

09　はじめまして！
様々な人にアートを届ける

10　美術館スケジュール（10～12月）

みなさんも街に出て、外国人観光客が多く訪れているのを実感されていることと思います。訪問先で美術館を訪れるのも、旅の楽しみの一つですよね。今回のエスプラナードでは、日本の古美術に関する展覧会を取り上げています。
はたして海外からのお客様には、これらの作品はどのように見えるのでしょうか？ふだんとは違った目で鑑賞してみるのも楽しいかもしれません。

特別展「博多のみほとけ」

博多のほとけさまに会いに行こう

福岡市内に伝わる仏像や宝物を、ご紹介する展覧会です。作品鑑賞をとおして、地域の歴史や文化にも思いを馳せていただく機会となります。本展を企画した、宮田太樹学芸員（古美術担当）に話を聞きました。

――どのような内容の展覧会ですか？

宮田　古から国際交流都市として栄えてきた博多の歴史を、仏像を中心とした作品でひもとく展覧会です。

今回の展覧会では、福岡市内の社寺に守り伝えられた仏像やご宝物をお借りして展示します。展示室を博多湾沿岸に見立てて、福岡市西部（糸島から姪浜のあたり）から中央部（博多部エリア）、東部（箱崎から志賀島のあたり）の地域別に作品をごらんいただきます。

――博多湾沿岸はどのような意味のある地域だったのでしょうか？

宮田　博多は、古来、中国をはじめとする諸外国との窓口の役割を果たしてきました。歴史あるお寺や神社の多くが、海沿い、もしくは海を見晴らせる高台に位置しています。これは、航海安全という当時の人びとの祈りを反映しているのではないかと思います。博多湾の沿岸には、古い仏像がたくさん残っていて、見どころのあるエリアです。

――神社やお寺の立地という視点からも、当時の人達が込めた思いが垣間見えるのですね。

宮田　そうなんです。今回の展覧会のために様々な神社やお寺に伺っていると、ビルの合間にあって静かな雰囲気でたたずんでいるようなところも多く、まるでタイムカプセルのように、当時の様子や人々の気持ちを伝えてくれているのだなと感じました。それもこれも、仏像や宝物が大切に守られてきたからこそ。それをよすがに、私たちは様々なことに想いを馳せることができます。昔から私たちは、自分の力ではどうにもならない事柄を、仏像に託して祈ってきたのですね。

――展覧会のみどころを教えて下さい。

宮田　今回の作品のほとんどは、福岡市内の神社やお寺からお借りしたものです。みなさんの家の近所だったり馴染み深い場所もきっとあるはずです。私たちが住む街にこんなに立派な仏像や宝物があるのだな、と知っていただき、地域の豊かな歴史に触れていただけると幸いです。



福岡県指定文化財

《千手観音菩薩立像》

平安時代　福寿寺蔵（小田観音堂伝来）

福岡市西区、博多湾に面した丘の上にある小田観音堂に伝来した千手観音です。高さ2mを越える像のほとんどを一本の木材から彫り出しています。腰高でがっしりとした体つきもあいまって、見るものを圧倒するような存在感があります。お堂のある丘の上から眺める博多湾は絶景で航海安全を祈願するのに相応しいロケーションです。

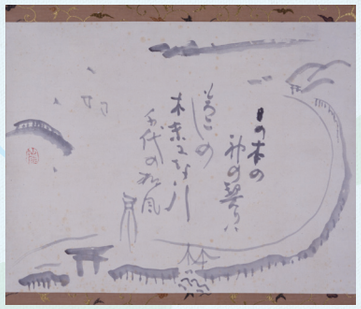


福岡市指定文化財

《聖観音菩薩立像》

平安時代　荘厳寺蔵

博多湾の東の出入り口に位置する志賀島にある荘厳寺に伝わる観音像です。約170cmの像のほとんどを一本の木材から彫り出しています。腰高な体つきや背中を後ろへ反らした力のこもった立ち姿が特徴です。かつて、志賀海神社に祀られていたといわれており、ご神木の霊力を形に込めたような力強さを感じさせます。



僊厓義梵筆《博多湾図》

江戸時代　福岡市美術館蔵

博多を代表する名僧である僊厓（仙厓）義梵（1750～1837）が箱崎から博多湾を望んだ景色を描いた作品です。画面左下には大鳥居や常夜燈といった筥崎宮の象徴的なモチーフがあらわされ、海岸線には松林が生い茂っています。かつてこの博多湾を越えて中国へわたった先人に対する僊厓の尊敬の思いが賛（コメント）に記されています。



《阿弥陀如来坐像》

平安時代　円覚寺蔵

博多区御供所町にある円覚寺に祀られる阿弥陀如来で、博多の中心部に伝わる仏像としては屈指の古像です。足を組んで坐りお腹の前で掌を重ねるのは、極楽浄土の様子を観想（イメージトレーニング）するのに相応しい姿です。微笑むような神秘的な表情や衣に刻まれた美しい襞がみどころです。

| 展覧会情報 |

特別展「博多のみほとけ」

◇会期：10月26日（土）～12月8日（日）
◇会場：2階 特別展示室
◇観覧料：一般1,400円（1,300円）、高大生900円（800円）、中学生以下無料
※（ ）内は前売り、20名以上の団体料金。
※会期中、一部作品の展示替えがあります。

［企画展］

生誕260年 世を観る眼 白醉庵（はくすいあん）・吉村観阿（よしむらかんあ）

美術作品を鑑賞する際、「作者」に注目することはあっても「作品を選んだ人」に注目することは少ないかもしれません。本展覧会はまさにそのような展覧会です。どんな作品を、なぜ選んだのかに注目して、お楽しみください。



《苦楽翁寿像（吉村観阿像）》溝口翠涛『戯画肖像 並略伝』（1853年）所載
写真提供：東京大学史料編纂所

本年の古美術企画展は、江戸時代の後期に茶道具の“目利き”として人生を切り開いた人物に焦点を当てます。

その名も吉村観阿（1765～1848）。「かんあ」は発音しにくいため「かんな」と呼ばれることが多いのですが、さて、この名を聞いてピンと来る方は、茶道や古美術に明るくない限りは、少ないことでしょう。歴史の表舞台に出てくることのない、しかし知る人ぞ知る目利きであり町人数寄者であるからです。

吉村観阿は江戸に生まれ、家業の両替商を営んでいましたが立ち行かなくなり、34歳で出家、浅草に庵（白醉庵）を結びます。その後、経緯は不明ですが40歳の頃より大名茶人・松平不昧（1751～1818）と交流するようになると、目利きの才覚を認められて頭角をあらわします。不昧が没してからは新発田藩主・溝口家に出入りし、同家の蔵品の鑑定や数寄道具の取り次ぎ（作品を見出して溝口家に納める）で活躍しました。

かくして目利きとしての名声を江戸中にとどろかせた観阿は、多くの作品を見出し、その箱に、自ら鑑定したことを記しています（これを箱書きと言います）。古美術コレクターの間では、観阿の箱書きを伴う作品には間違いがない、という評判が広まって箱書き自体が付加価値を高め、珍重されるようになり、作品の価値を飛躍的に高めています。「カンアだけにアカン箱書きも多い」と言われるほどに、ニセのサインも多く出回るほどです。

本展は、紆余曲折を経た観阿の人生を時系列でたどるように構成します。全国各地の所蔵家の方々から借用した作品に、当館蔵品を加えて、出品総数は約60件。松平不昧や溝口家との関わりを示す茶道具、観阿が所持または自作した品による茶事の道具組の再現、江戸における様々な文化人との交流を物語る資料等を展観し、観阿が眼差した美の世界を紹介します。そこには、自身を顧み、世を見渡し続けた彼の精神が見え隠れしています。

展覧会タイトルの冒頭に付けているように、本年度は吉村観阿が生まれて260年を迎えます。周年を記念するにはいかにも中途半端な数字なのですが、あえてそれを掲げることにしたのは、初めて「吉村観阿」の名を目にした方に、この人物がいつの時代に生きたかをすぐにイメージしていただきやすいと思ったからです。

江戸時代後期の茶の湯文化の舞台裏で、「稀世の奇士」（『松平不昧伝』中巻）とまで称された、いわば知られざる目利き。その謎めいた魅力に迫る展覧会です。

学芸課長　後藤 恒



原羊遊斎作 桃蒔絵細棗

江戸時代19世紀　個人蔵

蓋表に蒔絵で桃の文様をあしらった瀟洒な細棗です。桃の実は朱と金のグラデーション、葉は青漆の地に金で葉脈を表すなど、細部まで手の込んだ蒔絵が施されています。桃は古来、邪気を祓い、長寿の象徴とみなされてきたモチーフ。本作は傘寿（80歳）を迎えた観阿が名工・原羊遊斎（1769～1846）に125合作らせたものの一つ。この観阿好みの茶器を、自ら催した八十賀の茶事の時、知友に配ったのでした。



白呉州獅子蓋香炉

明時代17世紀　個人蔵

磁器でありながら、質朴で味わい深い魅力を放つ白呉州の香炉。蓋に座す姿の獅子の表情はどこかひょうきんで、蓋と身の表面をよく見ると蓮華や雲の文様が軽やかに線彫りされています。本作を見出した観阿はこれを新発田藩10代藩主・溝口直諒（号・翠涛）に取り次ぎました。ちなみに近代に入ってからは高橋箒庵を経て益田鈍翁の手に渡りました。





高麗雨漏茶碗

朝鮮王朝時代 15-16 世紀　福岡市美術館蔵

今や雨漏茶碗を代表する一品。収納する三重箱には厳かな飾りを伴う塗りの箱、箱を包む布にはインド更紗等、あらゆる付属物に贅が尽くされています。真塗りの内箱の蓋裏に松平不昧の字形になる和歌をあしらい、中箱の蓋裏には観阿の筆で「白醉庵所持（花押）」のサインがあります。本作の釉薬に生じた網目状のヒビ、その一部に生じた染み（雨漏）の景色に美しさ、面白さを見出した観阿にとって、おそらく本作は最上の一碗であったのでしょう。ゆえに不昧に箱書きを求め、箱を豪華に整えて愛蔵したものと考えられます。



松平不昧作 茶杓 歌銘「曲直」

江戸時代19世紀　個人蔵

不昧が観阿に贈った二本の茶杓。それらを収納する太い筒には不昧の筆で銘「曲直」、周囲に二首の和歌が書かれています。「曲」「直」とは、作風の異なる二本の茶杓を象徴するもので、和歌の内容もそれぞれに対応しています。観阿の紆余曲折の半生を知る不昧からの労いか、それとも励ましか…いずれにしても二人の信頼関係の深さが偲ばれます。

展覧会情報

企画展「生誕260年 世を観る眼 白醉庵（はくすいあん）・吉村観阿（よしむらかんあ）」

◇会場：1階 古美術企画展示室
◇会期：11月27日（水）～1月19日（日）
◇企画監修：宮武慶之（同志社大学 京都と茶文化研究センター共同研究員）

企画展 あらがう

奮起する現代作家たち

2024年、福岡市美術館は開館45周年を迎えます。福岡市美術館が開館した頃、21世紀は、さまざまなものが発達し、人々にとって暮らしやすい社会になっていると予想されていました。現在、テクノロジーやコミュニケーション手段の発達によって、確かに社会は便利になっています。しかし、ウクライナやパレスチナなど世界各地で戦火は絶えず、戦争や災害、そして経済格差と、苦しんでいる人々が存在します。そうした悲惨なニュースに憤りや悲しみを感じながら、やるせない気持ちで毎日を過ごしている人も多いでしょう。

本展は、李晶玉（リ ジョンオク）、寺田健人（てらだ けんと）、石原海（いしはら うみ）の3名の美術作家による作品12点を紹介する企画展です。李晶玉は、在日朝鮮人3世という立場から国家や民族に対する横断的な視点で、広島に原爆を落としたエノラゲイの内部を描くことで、戦争によってもたらされることへの想像を促そうとしています。寺田健人は、沖縄の風景と薬きょう※を組み合わせたシリーズ作品で、沖縄に残る戦争の傷と記憶を提示し、継承しようとしています。第1回福岡アートアワード受賞作家でもある石原海は、北九州市のキリスト教会を舞台にコミュニティや社会から疎外された人々が苦難を抱えながらも懸命に生きる姿を映像で記録します。

世界の一部として生きている私たちが、現代の状況をどのように受け止め、そして立ち向かうべきなのか。絵画、写真、映像という異なる表現手法をベースにした、1990年代生まれの作家たちの作品をとおして、時代や社会の波に立ち向かっていく術を考えます。

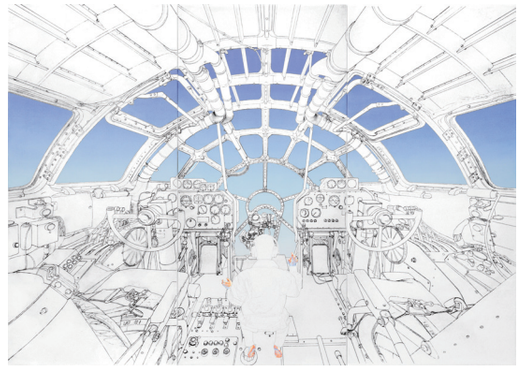
※銃の発射薬を詰める容器

——— 本展企画　山木裕子（福岡アジア美術館 学芸課長）

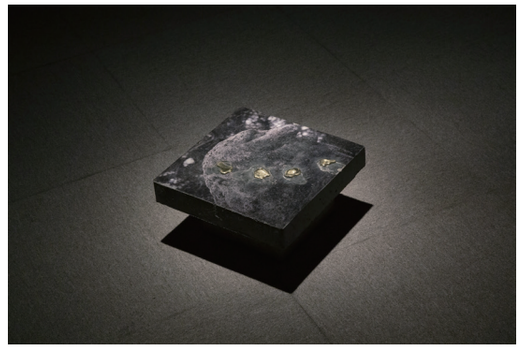
展覧会情報

企画展「あらがう」

◇会期：9月14日（土）～12月15日（日）
◇会場：2階 近現代美術室B



李晶玉《Enola Gay》2022年



寺田健人《the gunshot still echoes #1_shisa》2023年



石原海個展「重力の光：北九州編」の展示風景

当館の教育普及チームに、
新しいメンバーが加わりましたので、ご紹介します。

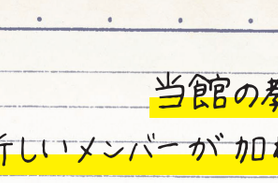
はじめまして！様々な人にアートを届ける



どんな仕事をしているの？

4月から教育普及専門員になりました冨坂です。福岡市美術館のコレクションや建築に癒されつつ、美術館の仕事を覚える日々です。

私は、主にアウトリーチ事業の「どこでも美術館」を担当しています。美術館になかなか来れない方へ美術に親しむ機会をつくるために、公民館や特別支援学校、院内学級、離島の小中学校でプログラムを行っています。プログラムでは、当館の作品をじっくり鑑賞する活動を行うので、日々、鑑賞のファシリテーションの練習もしています。また、学校の先生からの要望に応じて、「どこでも美術館」の教材を貸し出すこともしています。



対話型鑑賞の練習中

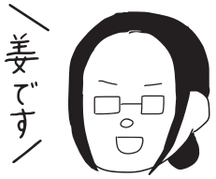
どんなところが楽しい？

学校や公民館で活動をすると幅広い年齢の参加者と出会います。恥ずかしそうに、でも満足そうに制作した作品を見せる高齢者の方々、東アフリカの布「カンガ」を身にまとってにこっと嬉しそうな子どもたち。どんな年齢でも、美術を楽しんで笑顔ほころぶ参加者の姿に、私もほっこりしています。

これからの「どこでも美術館」でも、参加者の方に鑑賞や制作の楽しさを感じてもらい、福岡市美術館へ来るきっかけともなるようプログラムを頑張っていきます。

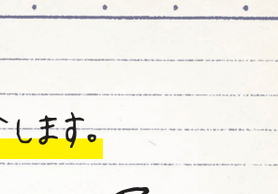


公民館での「どこでも美術館」



どんな仕事をしているの？

姜（かん）と申します。福岡市出身なので地元の美術館で勤務する事ができて光栄です。実は福岡市美術館が、学芸員資格取得のための実習先でした。私は主に「スクールツアー」を担当しています。スクールツアーでは当館の所蔵作品をギャラリーガイドボランティアの皆さんと学校の子どもたちが一緒に対話をしながら鑑賞を深めていく「対話型鑑賞」を行っています。「対話型鑑賞」では、作品をじっくり見て素直に感じたことを伝えたり、他の方の意見を聞いて新たに発見したりすることで、多様な見方を共有していきます。参加した子どもたちから「楽しかった！」「また美術館に行きたい。」という声をもらって、とても嬉しく思っています。



ボランティアの皆さんと
スクールツアーの打合せ中

ちなみに

個人的な話になりますが、私は漫画やアニメが大好きです。オタクと自称するにはまだまだ程遠いですが、細々とオタ活をしております。自分の好きなことを通して得るものを仕事の中で活かすことができるようになれたらと思っています。これからも、オタ活と仕事をうまく両立させながら、精一杯励んでいきたいです。



オタ活アイテム「ペンライト」

※2人の似顔絵はご本人に描いてもらいました！

美術館スケジュール

● 休館日　● 開館時間延長日（～午後8:00）7月～10月の金・土は夜間開館!



特別展（2階）

- 9月14日（土）–10月14日（月・祝）
  - 西日本シティ銀行コレクション展
- 9月14日（土）–10月14日（月・祝）
  - FaN Week特別展示 コレクターズ展
- 10月26日（土）–12月8日（日）
  - 博多のみほとけ

コレクション展 近現代美術（2階）

- 通期
  - コレクションハイライト（近現代美術室A）
- 9月14日（土）–12月8日（日）
  - 水彩って何?（近現代美術室A）
    - 小学校の図画工作などで、日本人に親しまれている水彩。本展では水彩の技法を中心に紹介します。
- 12月10日（火）–2025年3月23日（日）
  - 雪景色（近現代美術室A）
- 9月14日（土）–12月15日（日）
  - あらがう（近現代美術室B）
- 12月18日（水）–2025年3月23日（日）
  - 奈良原一高「ヴェネツィアの夜」「ジャパネスク」（近現代美術室B）
- 通期
  - コレクションハイライト（近現代美術室C）

コレクション展 古美術（1階）

- 10月1日（火）–11月24日（日）
  - 仙厓展（古美術企画展示室）
- 11月27日（水）–2025年1月19日（日）
  - 生誕260年 世を観る眼 白酔庵（はくすいあん）・吉村観阿（よしむらかんあ）（古美術企画展示室）
- 8月20日（火）–10月27日（日）
  - 秋の名品展（松永記念館室）
- 10月29日（火）–2025年1月26日（日）
  - 松永耳庵と福岡ゆかりの品々（松永記念館室）
    - 松永コレクションより、福岡ゆかりの数寄者にまつわる作品を精選してご紹介します。
- 通期
  - 東光院のみほとけ（東光院仏教美術室）

LECTURE

つきなみ講座

OCTOBER–DECEMBER 2024



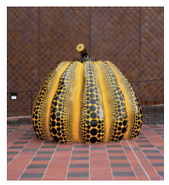
毎月1回、当館学芸員が、自分の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。

※聴講無料、申し込み不要 ※先着順（30分前開場） ※定員等は変更になることがあります。詳細は美術館ホームページをご確認ください。

10月 アジア×現代美術×福岡 ―伝説のFukuoka, 1990-1994

福岡市美術館のシンボル、草間彌生の《南瓜》がはじめて展示されたのは、1994年、天神の福岡銀行本店前でした。福岡で巻き起こっていた熱いアートムーブメントを、現在とつないで語ります。

講師：宮本初音（ART BASE 88［福岡］代表）
　　岩永悦子（館長）
日時：10月19日（土）15:00～17:00
会場：ミュージアムホール（定員180人）



草間彌生《南瓜》1994年
撮影：山中慎太郎（Qsyum!）
©YAYOI KUSAMA
画像転載不可

11月 博多のみほとけ

博多の寺社に伝わる仏像や宝物や僊厓禅師の書画について、展覧会の出陳作品を中心に紹介します。

日時：11月9日（土）15:00～16:00
会場：ミュージアムホール（定員180人）
講師：宮田太樹（学芸員・古美術係）



《阿弥陀如来坐像》平安時代、
円覚寺（博多区）蔵

12月 吉村観阿展の見どころ紹介

古美術企画展示室で開催中の「世を観る眼　白酔庵・吉村観阿」展の見どころについて担当学芸員がお話しします。

日時：12月21日（土）15:00～16:00
会場：レクチャールーム（定員54人）
講師：後藤恒（学芸課長）



《高麗雨漏茶碗》朝鮮王朝時代 15～16世紀

※展覧会およびイベントに変更が生じる場合があります。来館前にホームページで最新情報をご確認ください。

ギャラリー A-F 2階

10月1日（火）～10月6日（日）
- 松丸伸吾展（ギャラリーA）
- 令和6年景柳書道学会書道展（ギャラリーB,C,D）
- 異種三人展（ギャラリーE）
- 高取デッサン会 人物画展（ギャラリーF）

10月8日（火）～10月14日（月・祝）
- 第43回福岡きりえ展（ギャラリーA）
- 第54回福岡市高齢者美術展（ギャラリーB,C,D）
- 西日本写真協会福岡支部「フォトニ水会」第28回作品展 フォトニ水会最後の作品展（ギャラリーE）
- 田村正一展（ギャラリーF）

10月16日（水）～10月20日（日）
- 第29回福岡市美術連盟展（ギャラリーA,B,C,D,E,F）

10月22日（火）～10月27日（日）
- 第10回示現会福岡支部公募展 及び第3回示現会女性会員展（ギャラリーA,E）
- FLEETING MOMENTS（ギャラリーB,C,D）
- 「書のときめき展'24」一墨会&井上一光（ギャラリーF）

10月29日（火）～11月4日（月・祝）
- 西区市民美術展（ギャラリーA,B,C,D,E）
- キャトルボワット展（ギャラリーF）

11月6日（水）～11月10日（日）
- 写真倶楽部「絆」作品展（ギャラリーA）
- N548展 2024（ギャラリーB,C,D）
- 貞苅友江パッチワーク・キルト展（ギャラリーE）
- 第27回石耀展（ギャラリーF）

11月12日（火）～11月17日（日）
- 九州産業大学 絵画専攻・映像メディア専攻合同展（ギャラリーA）
- 第45回中央区市民文化祭美術作品展（ギャラリーB,C,D,E,F）

11月19日（火）～11月24日（日）
- 第19回福岡文化連盟祭り「アートビエンナーレ福岡2024」（ギャラリーA,B,C,D,E,F）

11月26日（火）～12月1日（日）
- 第44回南区美術展（ギャラリーABCD）
- 鉛筆画教室展（ギャラリーE）
- 宇遊展（ギャラリーF）

12月3日（火）～12月8日（日）
- 第52回九州行動展（ギャラリーABCDF）
- かたちとじぶん 二人展（ギャラリーE）

12月10日（火）～12月15日（日）
- 第8回全九州高等学校総合文化祭福岡大会 美術・工芸、書道、写真合同展覧会（ギャラリーABCDEF）

12月17日（火）～12月22日（日）
- 第40回城南区市民アート展（ギャラリーA,B,C,D,E）
- 平安へのあこがれ 裕竹会かな書展（ギャラリーF）

大王製紙は、環境に配慮した製品を通して、
地球環境に貢献し続けます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

大王製紙株式会社
東京都千代田区富士見二丁目10番2号
https://www.daio-paper.co.jp/

福岡市美術館ミュージアムイベント協賛企業・団体

GRANDE MAISON SEKISUI HOUSE
大王製紙株式会社
QTnet
福岡銀行
NIPPON EXPRESS
ウエスト
人につくす、街につくす。セイワ世研
AZUSA SEKKEI
九州電力 ずっと先まで、明るくしたい。
草苑

ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による寄付）を募集しています。

わたすclub

会員になると、展覧会や映画などの料金がオトクに!もっと身近にアートのワクワクを感じてみませんか。福岡市文化芸術振興財団のホームページ（http://www.ffac.or.jp/wa/）またはミュージアムショップ店頭で入会受付中。

MUSEUM SHOP
ミュージアムショップ



本体サイズ：高さ14.5cm×幅7.5cm×奥行7.5cm

福かぶり猫
色絵吉野山図茶壷
11,000円（税込）

博多人形師の小副川太郎氏による、福岡市美術館の所蔵品モチーフの福かぶり猫です。猫の袋に入る習性から「袋をかぶる＝福をかぶる」そして「ふくおかぶる」にあやかった、福岡ならではのお土産です。

福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館
ウェブサイト
www.fukuoka-art-museum.jp

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6　TEL：092-714-6051（代表）　FAX：092-714-6071
【開館時間】 9:30～17:30（7月～10月の金・土曜日は9:30～20:00） ※入館は閉館の30分前まで。
【休館日】 月曜日、年末年始（12月28日～1月4日※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日）

esplanade OCTOBER 2024 | NO.217

福岡市美術館　季刊誌エスプラナード217号　発行日：2024年10月1日

【制作】福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社（西日本新聞社）【編集】浅野佳子（nico edit）【デザイン】dictom design【印刷】株式会社西日本新聞プロダクツ
【発行】福岡市美術館（〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-6 TEL:092-714-6051 FAX:092-714-6071 https://www.fukuoka-art-museum.jp）